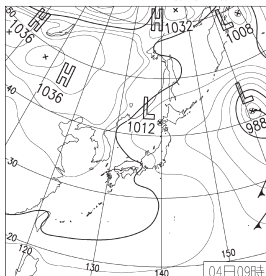


日々の天気図

— No. 180

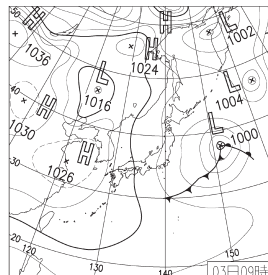
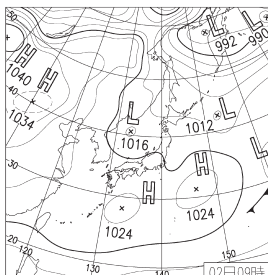
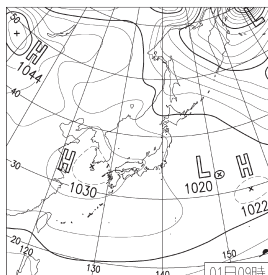
2017年1月

- ・上旬～中旬、タイ南部で洪水、被災者百万人超、欧州は寒波で死者、大雪、14・15日交通障害でセンター試験開始繰下げ等、9千人超影響、広島積雪19cmは84年以來、23・24日、鳥取・岡山で車300台以上立ち往生、
- ・昨秋速報のアーニヤ、水温低下期間短く定義満たさず認定なしに、
(気象庁予報部予報課)



1日(日)穏やかな元旦

気圧の谷の影響で北陸～北日本の日本海側で雨や雪となった所もあったが、高気圧に覆われほぼ全国的に晴れ。冷え込んだ北海道東部以外は最低・最高気温共に平年並か高め。



2日(月)松江市でウメ開花

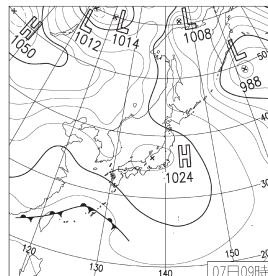
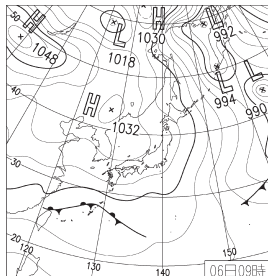
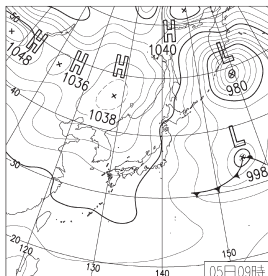
西日本～東日本は高気圧に覆われ晴れて気温が上昇し最高気温は3～4月並。北陸～北日本の日本海側は低気圧の影響で午後は雨や雪で雷の所も。松山で平年より32日遅い初霜。

3日(火)冬型の気圧配置

日本海側は気圧の谷や寒気の影響を受けて雨や雪。太平洋側は概ね晴れたが東海や東北の一部に日本海側の雲が流入し雨や雪。最高気温は全国的に3月並、西日本では4月並の所も。

4日(水)午後には冬型強まる

西～東日本の太平洋側や九州北部は概ね晴れ。近畿北部～北陸や北日本では曇りや雨または雪。最高気温は九州や中国、四国を中心に平年より5℃以上高く4月並の所も。



5日(木)冬型続く

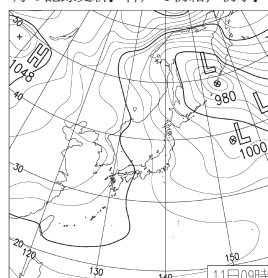
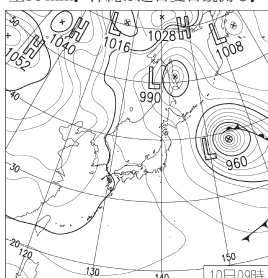
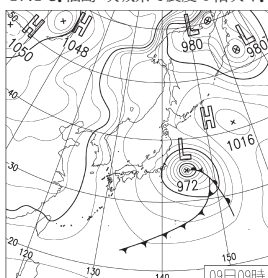
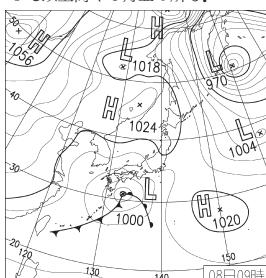
冬型の気圧配置続き、群馬県藤原で日降雪量54cm。西日本では晴れや曇りで気温高め。最高気温、沖縄県波照間が1月1位、志多阿原で1位タイの27.2℃。福島・茨城県で震度4相次ぐ。

6日(金)冬型の気圧配置緩む

南西諸島は前線接近で局地的に激しい雨。本州付近に高気圧張り出し日本海側の雪雲は次第に弱まり九州以北は晴れ間広がる。沖縄県名護で日降水量54mm。沖縄は連日夏日観測も。

7日(土)移動性高気圧

本州付近は高気圧に覆われ晴れた所多い。東シナ海に低気圧発生し、沖縄～九州は雨、鹿児島県中ノ島で112mm/1h、日降水量218mmは共に1月の記録更新。神戸で初霜、初水。



8日(日)南岸を低気圧東北東進

低気圧が急速に発達しながら西～東日本南岸を進み、伊豆諸島各地で日降水量100mm超の雨で1月1位、東京都三宅島で最大瞬間風速33.1m/s、関東甲信内陸は大雪、甲府で積雪9cm。

9日(月)山梨県河口湖積雪43cm

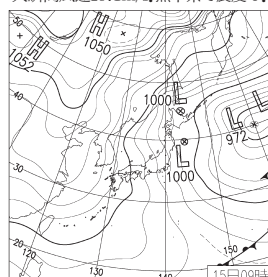
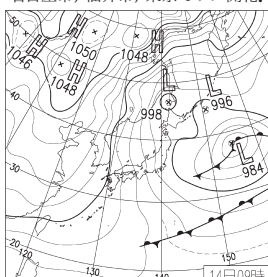
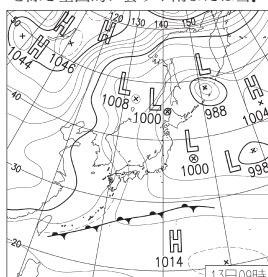
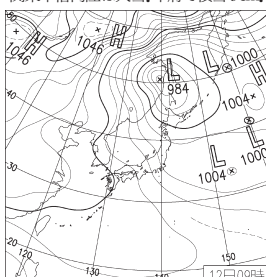
低気圧は発達しながら関東の南から日本の東へ。静岡県稲取で最大瞬間風速32.7m/s。午後は次第に冬型気圧配置。西～東日本太平洋側の一部を除き全国的に曇りや雨または雪。

10日(火)全国的に暖かな朝

前日の暖気の影響残り、朝の最低気温は北日本を中心に平年より高く、3月～4月上旬並。午後は北日本を気圧の谷が通過し冬型気圧配置強まる。名古屋、福井市、東京でウメ開花。

11日(水)風雪強まる

冬型の気圧配置強まり日本海側は雪や雨、全国で風強い。青森県酸ヶ湯では積雪233cmと2m超え。山形県村折で日降雪量66cm。東京都三宅島最大瞬間風速28.1m/s。熊本県で震度4。



12日(木)寒気さらに強まる

北日本や日本海に強い寒気の流入続き、北陸～東北を中心に大雪。福島県南郷で日降雪量73cm。秋田県八森で最大瞬間風速29.6m/s。東京で初水。奈良市で全国一早いヒバリ初鳴。

13日(金)引き続き冬型

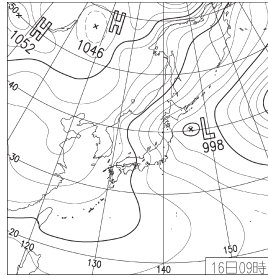
西～北日本の日本海側は雪や雨、山陰～北陸、東北日本海側では大雪となりふぶく。新潟県高田では日降水量124mmで1月1位。雪雲の一部は太平洋側にも。沖縄・奄美も曇りや雨。

14日(土)西日本にも強い寒気

上空約1500mで-12℃以下の寒気が西日本まで南下。新潟県で日降雪量60cm以上。全国の402地点で真冬日。佐賀・高松・和歌山・静岡など初雪。松山初水。那覇市でヒカンザクラ開花。

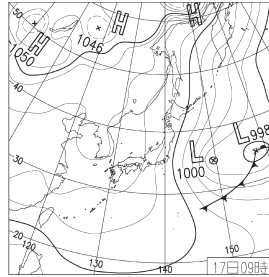
15日(日)寒気のピーク

北日本上空約5000mで-45℃以下の寒気停滞、平年より約15℃低い。西日本～東海の太平洋側でも積雪、広島19cm、京都14cm、名古屋4cm、長崎・福岡・下関で初水、長崎・高知初雪。



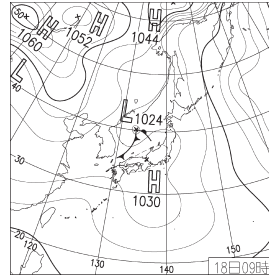
16日(月)寒気弱まる

冬型の気圧配置が継続し北海道えりも岬で最大瞬間風速31.6m/sなど沿岸部で強風が続く。寒気は弱まったが西～東日本では厳しい寒さ。全国約8割749地点で冬日。



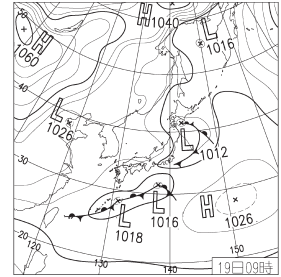
17日(火)東～北日本中心の冬型

関東甲信の山沿いや北陸などで降雪続く。太平洋側は概ね晴れて前日より気温が上昇したが、平年より低い所多い。佐賀市、横浜市、銚子市でウメ開花。横浜市は最早。



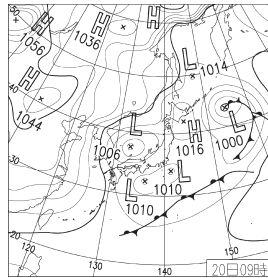
18日(水)冬型緩む

高気圧に覆われ北陸以北の雪も弱まり中国・四国～東北で晴れ間。午後、日本海と南西諸島の前線・低気圧の影響で雨や雪の所も。秋田県で突風。長崎市などウメ開花。茨城県で震度4。



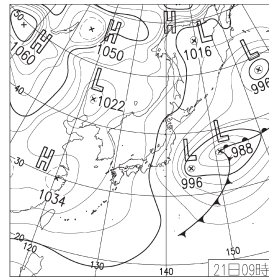
19日(木)福岡市でウメ開花

北日本と南西諸島を低気圧が通過。暖気が入って朝の最低気温は北日本中心に平年より高め。沖縄で雨。北陸～北日本で雨や雪。沖縄県読谷46.5mm/1hは1月1位。



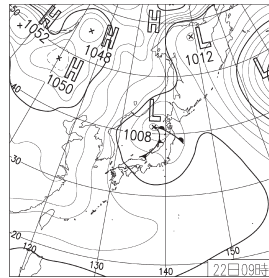
20日(金)大荒れの大雪

強い寒気入り西日本中心に暴風雪や雷。最大風速福井県敦賀21.4m/sなど西日本～北陸で1月1位。福井県三国で最大瞬間風速32.9m/s。福島県白河日降雪量35cm。鹿児島・熊本で初雪。



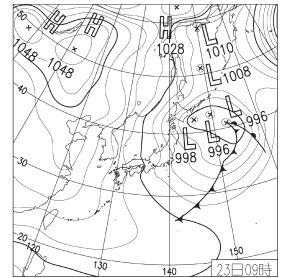
21日(土)雪次第におさまる

低気圧が日本の東へ進み、寒気吹き出しに伴う日本海側の雪は次第に弱まる。長野県小谷で日降雪量48cm。日本海沿岸で風強く金沢で最大瞬間風速30.1m/s。神戸市ウメ開花最早。



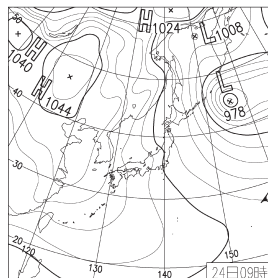
22日(日)北日本を低気圧通過

低気圧が北日本へ進み全国的に風強まる。前線通過後は寒気入り西から冬型気圧配置。日本海側や北日本で雪や雨、雷も。最大瞬間風速は北海道米岡27.3m/s。静岡県網代26.5m/s。



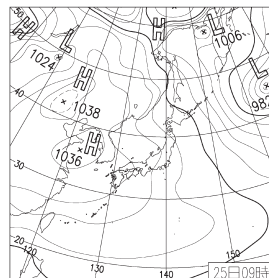
23日(月)西日本で大雪

上空の強い寒気で冬型の気圧配置強まり山陰～北陸を中心に大雪。日降雪量は鳥取県大山95cmなど山地60cm以上。山陰～近畿北部の平野部でも40cm前後。九州の平地でも積雪。



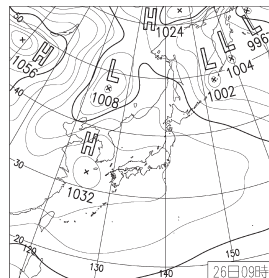
24日(火)鳥取県大山積雪241cm

上空約5500mで-33℃以下の強い寒気が西日本まで南下。最深積雪は岡山県千屋88cm。鳥取県真頭111cmなど1月1位。鳥取57cm。北海道占冠-32.8℃は今冬1月までの全国最低。



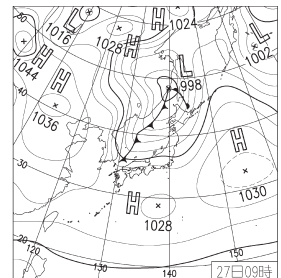
25日(水)稚内で流氷初日

黄海の高気圧が東へ張り出し、冬型の気圧配置が西から緩む。最低気温は九州と北海道を中心に平年より5℃以上低く、全国の約9割821地点で冬日。石垣市でヒカンザクラ開花。



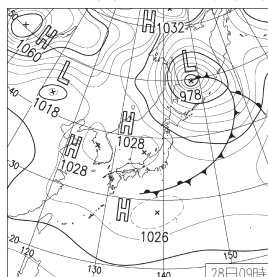
26日(木)寒さとらぐ

移動性高気圧に覆われて全国的に晴れ。最低気温は西～東日本で平年より低く北日本は平年並かやや高く3～4月並の地点も。最高気温は全国的に平年並。南大東村でウグイス初鳴。



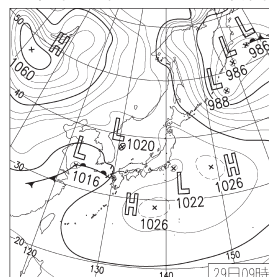
27日(金)北日本など荒れた天気

サハリン付近を発達する低気圧が進み寒冷前線が日本列島を通過。北日本中心に風強く前線に伴い雨や雷も。北海道えりも岬で最大瞬間風速35.5m/s。南大東村ヒカンザクラ開花。



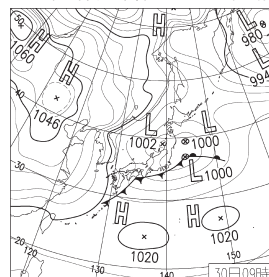
28日(土)北日本はふぶき

オホーツク海の発達した低気圧の影響で北日本は暴風やふぶき。北海道釧路の最大風速23.1m/sは1月1位。西～東日本は高気圧に覆われ概ね晴れ。沖縄・奄美も概ね晴れて夏日の所も。



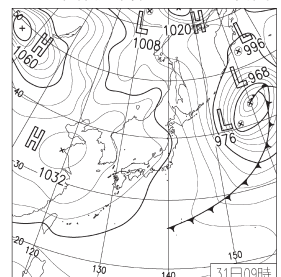
29日(日)天気下り坂

黄海で発生した低気圧は前線を伴い山陰沿岸へ。西から雨となり夜には東～北日本も所々雨や雪。暖気が流れ込んだ九州各地で最高気温が20℃を超え1月の1位。高知市でウメ開花。



30日(月)関東など気温上がる

関東付近～日本の東へ進んだ低気圧に伴う南よりの風で西～東日本の太平洋側で気温上昇。最高気温千葉県茂原21.5℃。東京都羽田21.1℃など1月1位。宮古島市ヒカンザクラ開花。



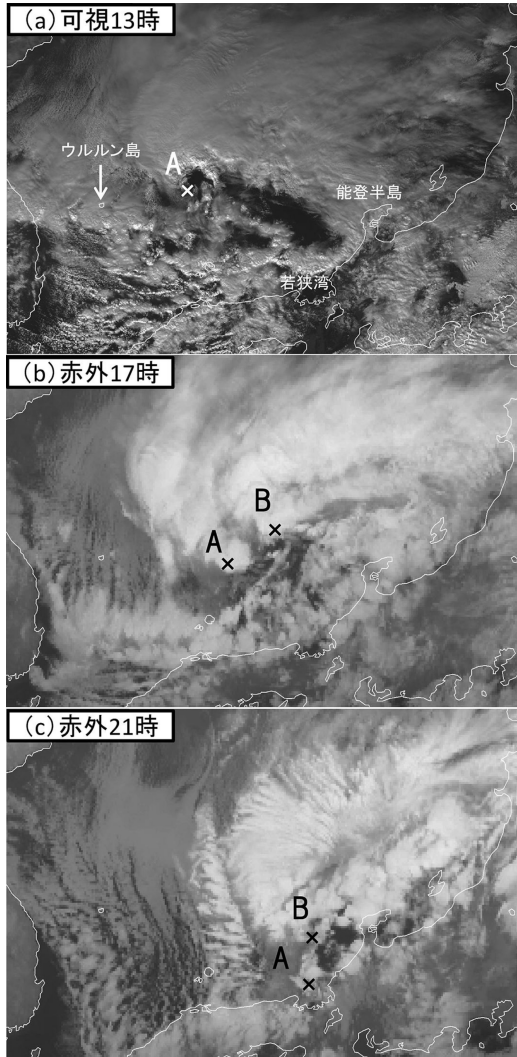
31日(火)網走で流氷初日

平年より10日遅い記録。西高東低の気圧配置となり寒気の南下も加わって日中は暖かい前日から転じて平年並の寒さ。奄美市でヒカンザクラ開花。平年より12日遅く最遅タイ。



今月のひまわり画像—2017年1月

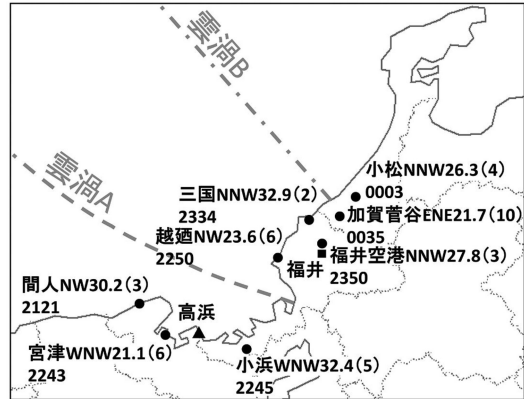
記録的な突風をもたらした日本海の雲渦



第1図 日本海中・西部付近における2017年1月20日。(a) 13時(日本時間)の可視画像, (b) 17時, (c) 21時の赤外画像(記号A, Bは雲渦を示す)。

2017年1月20日夕方~21日未明, 京都府から石川県にかけて, 寒冷渦に伴って発生した2つの雲渦の通過に伴い, 各地で記録的な突風が観測された。

第1図aは, 日本海中・西部付近の20日13時の可



第2図 雲渦A, Bの通過に伴い最大瞬間風速が統計開始以来10位以内に入ったアメダス地点と観測値(単位はm/s), 順位(カッコ内の数字), 観測時刻(4桁の数字). 破線, 一点鎖線はそれぞれ雲渦A, Bの経路を示す。

視画像で, ウルルン島の東には低気圧に対応した明瞭な雲渦A(×印は渦中心)が見られる。この雲渦は, 日本海寒帯気団収束帯(以下, JPCZ)上から発生し, 上・中層トラフが朝鮮半島上に進んできた同日09時頃から低気圧性回転が明瞭となった。この低気圧は南東進しながら発達し, 同日21時に若狭湾付近で中心気圧が1004 hPaまで深まった(前12時間で8 hPaの気圧低下)。その後, 福井県に上陸し, 21日03時に消滅した。また, 同図bの雲渦Bは, 20日15時頃から能登半島の西北西JPCZ上で明瞭化した。中心付近に対流雲を伴いながら南東進し, 同日23時頃に石川・福井県境付近に上陸後, 不明瞭化した。

2つの雲渦の通過に伴い, アメダスでは最大瞬間風速が統計開始(2008年または2009年)以来10位以内に入る観測が相次いだ(第2図)。関西電力高浜原子力発電所(同図▲印)では, 20日21時50分頃, 構内にある長さ110 m余りの大型クレーンのアームが折れ曲がった。事故直前にあたる21時(第1図c), 雲渦Aが若狭湾を通過中で, 気象庁毎時大気解析によると, 雲渦A後面の高度300 m付近では北西寄りでは40~50 kt(1 kt=0.51 m/s)の風が解析されていた。また, 雲渦B通過後の21日00時00分, 福井(第2図■印)のウィンドプロファイラは, 同高度付近で北北西70 ktを観測していた。

(気象庁予報部予報課 原 基)